

東日本大震災とレーシック

～災害時における良好な裸眼視力の重要性～



僕はあの日のことを忘れない…

医療法人小笠原眼科クリニック

院長 小笠原 孝祐

東日本大震災とレーシック

～災害時における良好な裸眼視力の重要性～

1. はじめに

平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災から満3年が経ちました。被災地の復興は思うように進んでおらず、今でも不自由な生活を強いられている方々がたくさんおられることを思う時、この震災による被害の甚大さを改めて認識するとともに、被災地の皆様方に心からお見舞いを申し上げます。

被災地の復興には、国をあげて取り組んでいるわけですが、年毎に大震災の記憶やその地に暮らす方への思いが薄らいできている気がすることも事実ではないでしょうか。さて、今回の大震災は災害時にメガネやコンタクトレンズなしに裸眼で物がよく見えるということの大切さを眼科医療に携わる我々医師に教えてくれました。また、当院でレーシックを受けた患者さんからの体験談からもそのことを知り、この機会に災害とレーシックという観点から東日本大震災の経験をまとめてみました。今後の教訓の一つとして皆様方のお役に立つ記録となれば、この上ない幸いです。

2. 背景

当院では平成13(2001)年7月28日からレーシックを開始しており、今年2月末までに1,015名1,990眼の手術を行わせて頂きました。震災前に岩手県の沿岸地域に居住していてレーシックを受けた患者さんは46名いらっしゃいましたが、震災後の1年間にはレーシックについての沿岸地域の方々からの問い合わせ件数が全体の6%から16%と約3倍に増加していることが分かりました(図1)。また、震災後に実際に屈折矯正手術を受けた患者さんは20名おり、レーシックを受けた理由のほとんどが東日本大震災でした。

このような状況から沿岸の被災地域に居住する方でレーシックを受けた患者さんの体験談をお聞きし、それをまとめることは有意義であると考え、震災後にレーシックを受けた20名と震災前にレーシックを受けた46名、計66名の方々にアンケート調査を実施しました。震災前にレーシックを受けた患者さんは住所が変わっていたり、転居先が不明になっている方もたくさんおられ、震災の影響をこのことから知る事が出来ました。

ちなみに東日本大震災による被害の状況については、住居全壊、住居半壊、住居一部損壊、業務の停止あるいは廃止を含めて回答を頂きましたが、レーシックを受けた患者さんのうち、実際に東日本大震災の被害に遭遇したことを確認出来た方は10名(約21%)でした。また、御不幸にもお亡くなりになった方が1名おられることも分かりました。

レーシック説明希望の問い合わせ数



3. 東日本大震災後にレーシックを受けた患者さんからの声

以下に東日本大震災後にレーシックを受けた患者さんからの体験談を紹介させていただきます。

- 被災直後、市内では粉塵が酷く感染症の恐れもあってマスクは必須でしたが、寒い時期だったためメガネがすぐ曇って大変でした。
- 震災時2週間用のコンタクトレンズを使用していましたが、メガネ、替えのコンタクト・洗浄液等は津波で流出してしまったため、同じコンタクトレンズを45日間装着し続けました。仕事の関係上、職場を離れるわけにもいかず、代替品を取得することは出来ませんでした。このような状況の中でコンタクトを装着し続けることは、目への負担を考えると大変な心配事でした。
- 震災当日はメガネで仕事に行っており、地震に遭い、娘と避難所に泊まりましたが、メガネを外せば目の前にいる娘の顔も認識できない位視力が悪かったので、メガネが無かったらこの先の生活も大変と考え、メガネはずっと付けたまま寝る時も外しませんでした。
- ワンデーのコンタクトを使っていたため、替えるコンタクトが無く困り、数日間以上同じコンタクトをつけっぱなしにしていました（複数回答）。
- コンタクトレンズもメガネも流され、メガネ販売店が再開するまで見えなくて困っていました。その際、レーシック手術を受けようと考えました。
- 震災時、電気・水道がストップしたため、コンタクトレンズの洗浄が出来ず、衛生面での不安が常に付きまといました。
- 震災当日から1か月間は空気の汚れが酷く、目を開けることが出来ないことも多々ありました。土煙、火事、魚の腐敗臭の中でメガネで生活していましたが、ドライアイもあったのですが、目薬も手に入らない為、大変辛い状況でした。避難所で睡眠中にメガネを踏まれ破損してしまい、1か月ぐらいメガネ無しで生活し、頭痛に悩まされました。

- レーシックには震災前から興味がありましたが、被災直後、市内では粉塵が酷く、感染症の恐れもあってマスクは必須でしたが、寒い時期だった為、メガネがすぐ曇ってしまい大変だった自分の体験の他、周りにいるコンタクトを使用している方なども不自由な生活をしているのを目の当たりにして思い切ってレーシックを受けることにしました。
- 震災時の体験から裸眼で良く見えることの重要性を認識し、そのためレーシック手術を受けました。震災により、メガネ、コンタクトレンズがない生活の重要性を認識しました。
- 震災時は、メガネ1つが唯一の頼りであった状況で、もし壊してしまったり紛失したら余震で逃げられなくなるのではという不安も強く、今後のことも考え、裸眼で生活出来るレーシック手術を受ける決断をしました。
- 災害時にコンタクトレンズに頼らないことが重要であり、レーシック手術を受けることにしました。
- 災害はいつ起こるか分かりませんし、就寝中などに地震が起きた際、裸眼で物を見ることが出来るのはとても重要であり、レーシックを受けることにしました。

4. 東日本大震災後にレーシックを受けた患者さんの視力経過と満足度について

当院ではレーシックを施行するにあたっては、当院で作成したガイダンスをもとに術前のカウンセリングを各患者さん毎に個別に3時間以上かけて行くとともに、視力検査や眼科的な適応検査についても複数回行い、手術適応について決定してきました。

また、術後の経過については、原則として術翌日、1週間後、1カ月後、3カ月後、6カ月後、さらにその後は1年毎に当院で決定したマニュアルをもとに術後検査を行った後に患者さんに術後問診用紙（別紙1）に記入して頂き、レーシックを受けた満足度の評価を行ってきました。東日本大震災後にレーシックを受けた患者さんの術後3カ月の満足度（図1）を円グラフで示すとともに、裸眼視力の術後の推移を棒グラフで提示致しますが（図2）、とても満足と満足を合わせた数値は97%以上と良好であると判断されます。

体験談 救済活動にレーシックが役立ちました！

消防という仕事をしている私の身近にはコンタクトレンズの使用で困っている人がいました。水が出ないためにコンタクトレンズケースを洗浄できない。お店が閉まっているため洗浄液が無い。取り替えるレンズが無い。24時間あるいは、2、3日つけたまま活動している署員もおり、少しの時間を見つけ目薬を点眼していました。衛生上は良くないと知っていても活動のため仕方がなかったと思います。また、塵が舞っていてゴーグルを装着しなければならないのですが、メガネが邪魔で思うように活動できないというストレスもあったようです。

その点、私は視力矯正手術をしたことにより何もストレスを感じることなく活動できました。レーシック等の屈折矯正手術は、消防士採用試験の規定視力をクリアーするためでなく、今後の救助活動に本当の必要性があるのだと思います。

21歳男性（大船渡市在住消防士）

1. 見え方

右目・左目それぞれに、現在の見え方と最も近いものをお選び頂き、○で囲んでください。

裸眼で遠方を見ると	右目	とても見やすい	0	1	2	3	4	かなり見づらい
	左目		0	1	2	3	4	
裸眼で近方を見ると	右目	とても見やすい	0	1	2	3	4	かなり見づらい
	左目		0	1	2	3	4	
光がにじむ	右目	全く感じない	0	1	2	3	4	かなり感じる
	左目		0	1	2	3	4	
二重に見える	右目	全く感じない	0	1	2	3	4	かなり感じる
	左目		0	1	2	3	4	
まぶしく感じる	右目	全く感じない	0	1	2	3	4	かなり感じる
	左目		0	1	2	3	4	
暗い所で	右目	とても見やすい	0	1	2	3	4	かなり見づらい
	左目		0	1	2	3	4	

2. その他の眼症状

右目・左目それぞれに、ご自身の症状と最も近いものをお選び頂き、○で囲んでください。

目が疲れる	右目	全く感じない	0	1	2	3	4	かなり感じる
	左目		0	1	2	3	4	
乾燥感がある	右目	全く感じない	0	1	2	3	4	かなり感じる
	左目		0	1	2	3	4	
異物感がある	右目	全く感じない	0	1	2	3	4	かなり感じる
	左目		0	1	2	3	4	
充血する	右目	全くない	0	1	2	3	4	かなりある
	左目		0	1	2	3	4	
目やにが出る	右目	全くない	0	1	2	3	4	かなりある
	左目		0	1	2	3	4	

3. その他の症状がありましたら、なるべく具体的にお書きください。

.....

.....

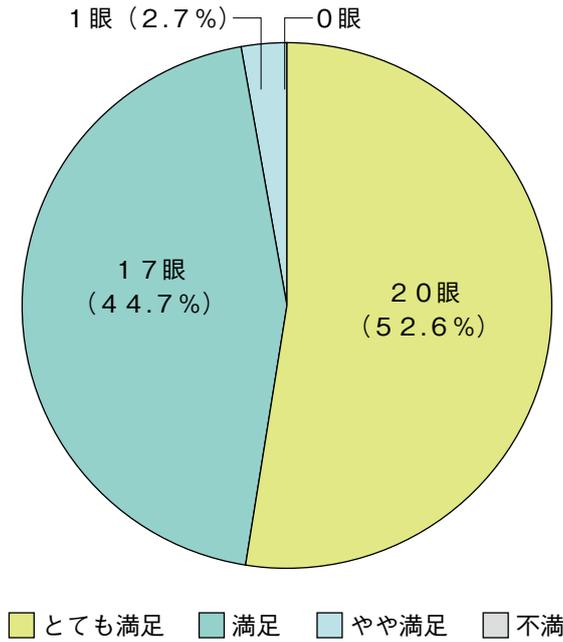
4. 現時点での手術に対する満足度

最も近いものをお選び頂き、その番号をご記入してください。

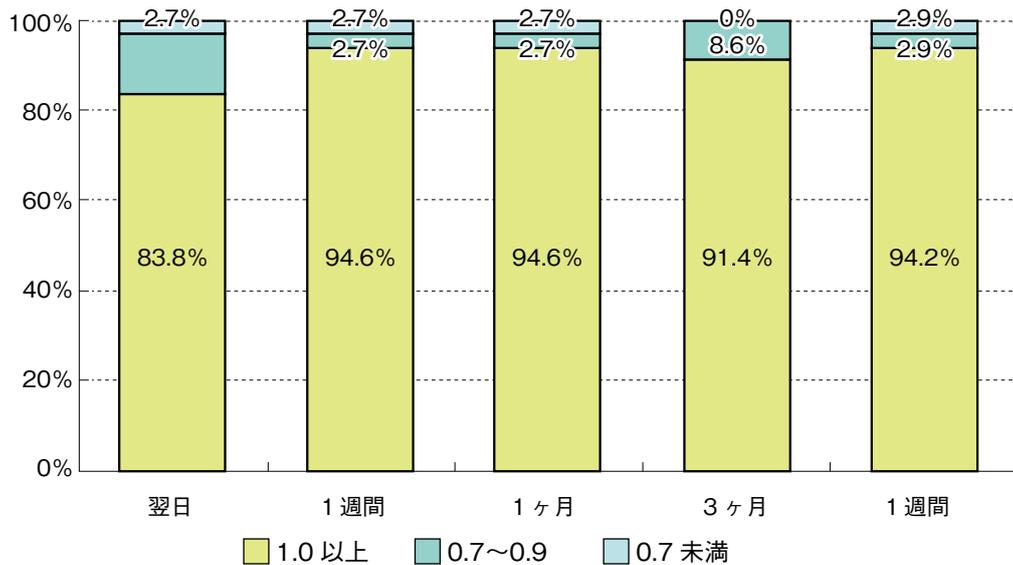
1. 手術を受けてとても良かった。とても満足している。
2. ほぼ期待通りの結果が得られた。満足している。
3. 期待していたより少し悪く、やや不満。
4. 不満である。受けなければよかったと思っている。

右目 () 左目 () 両目 ()

術後 3 カ月の患者さんの満足度



術後裸眼視力の推移



5. 東日本大震災前にレーシックを受けた患者さんからの声

東日本震災前にレーシック手術を受け、裸眼での生活が出来るようになった方々からは、東日本大震災の際にメガネやコンタクトレンズのことで苦労された方々の具体的なお話をお教えましたので、以下に紹介致します。災害時に裸眼で生活出来ることの重要性を考える上での貴重な資料であると思います。

- 震災の時は周りの人たちに「レーシックをされていていいね」と言われました。なぜなら、何日も家に帰れず、コンタクトの人はかなり苦労していました。裸眼で仕事も出来るし、車も運転出来る。レーシックをやっていて本当に良かったと思いました。

- 震災によりメガネの鼻宛部分が壊れたまま装着していて、頭痛などを訴えていた方がおりました。その後、メガネを直したら頭痛も治まったようです。自分はレーシックをしていたのでこのようなことはありませんでした。
- メガネを流された方が、とりあえず度が合わなくても間に合わせの安いメガネを探し、使っていた方が沢山おりました。職場が宮古市の唯一の救急病院だったのですが、被災者への支援のため家に帰れず、コンタクトレンズを使用していた人はそれを外すことが出来なかったり、予備がなくなったり、大変な思いをしていました。
- レーシックを受けたいが、眼の手術は怖くて出来ない方も多く、費用面と合わせて考えて断念する人もおられます。レーシックについての正しい知識を広めて頂きたいと思います。しっかり説明を聞けば、納得して手術を受ける人が多いと思います。レーシックは多くの人に受けてほしい手術だと思います。
- 被災地を含めた沿岸には、そもそも眼科医やコンタクトレンズを扱う販売店が少なく、震災後 1 ヶ月くらいは不自由なメガネで我慢していた人が多いのが現状でした。災害に備えてレーシックをすることは重要だと思いますが、レーシックを受けなくても災害弱者にならなくて済むよう、医療組織の整備を進めてほしいと思います。
- 被災後 10 日間ほどコンタクトレンズを装着していた方が多く、予備もなく、外すと見えなくなるので、目には悪いとわかっていても着け続けなければなりません。余震も多く、コンタクトレンズに頼るしかなかったのですが、買える店もなかった為購入が出来ず、残り少ないガソリンで内陸まで買いに言った方もおりました。
- 被災時、裸眼で見えることの有難さを認識しました。目が悪いと逃げる時も危険です。娘にもレーシックを受けてほしいと思っています。安全のためにもレーシックを広げてほしいと思います。

6. 東日本大震災後の避難所でのメガネ無償提供の様子（大槌町）



一人ひとり見え方を確認しながらのメガネ提供



大勢の方がかけつけました



被災直後の避難所の様子

エキシマレーザーを用いた屈折矯正手術であるレーシックは、手術の有効性や合併症の危険性等の長期間にわたる科学的な解析結果（臨床治験）をもとに平成12(2000)年1月に厚生労働省から認可された安全な手術です。NASA（米国航空宇宙局）も宇宙飛行士にレーシックを認めています。しかし、最近、レーシックについての十分な説明を受けることなく、安易な気持ちで手術を受けたり、また、施術する側の説明が不十分であったり、執刀医が眼科専門医でなかったりということが要因となり、手術後に問題が生じることが取り上げられています。平成25(2013)年12月4日、消費者庁はレーシックを受けることに対する注意喚起の啓発文書をホームページに公開しました。これは、レーシック難民と言われる患者さん方（多くは大都市の美容整形関連施設で手術を受けています）の支援団体である「レーシック被害者の会」という組織が中心となり、その方々の意見を汲み取った内容が基礎となっています。その中のレーシックによる合併症の解析データはあまりにも偏っており、レーシックを受けようと考えている患者さんへの不安を募らせる結果となってしまう、大変残念に思っています。

さて、皆さんは大学病院と眼科専門医がレーシックを行っている全国の医療機関で構成されている「安心レーシックネットワーク」という名前を御存知でしょうか。安全にレーシックを受けることについて患者さんに啓発し、十分な説明と手術に対する理解を頂いた上でレーシックを行うという理念から10の大学病院と29の民間の眼科専門医療施設がその垣根を越えて活動を行っている組織です。どんな手術でも術後に全く訴えが無いということは皆無と考えられますが、レーシック手術は正常な角膜に施術する術式であることから、より細心の注意が必要であることは論を待ちません。したがって、当院でも別紙1のように術後の見え方やその他の眼症状につき、詳細かつ軽微と思われる訴えも把握出来るよう努めてきました。患者さんの見え方ならびにその他の眼症状を含めた細かい点までアンケートにて答えて頂き、常に患者さんの立場に立った診療を心掛けてきました。

安心レーシックの条件として、以下に挙げる8項目が重要です。それを厳守することを最低限の条件としてレーシックを行っている「安心レーシックネットワーク」に加入している施設においては、術後の感染症の報告は1例もなく、また、レーシック術後の満足度も95%以上と極めて高いものがあります。したがって、レーシックを安易に受けることは極力避けなければならないことは当然ですが、いつ起こるか分からない大震災に備えるという観点からもレーシックによって裸眼視力が向上し、メガネやコンタクトレンズ等の補助具なしで見えるようになることの意義を改めて考えて頂ければと思います。

レーシックはQOL（Quality of Life）の向上に役立つことはよく知られていますが、それ以上の価値が十分にあることを知って欲しいと思います。

安心の条件

- ① お互いが信頼し、紹介し合える医師またはクリニックである。
- ② 院長および執刀医が「眼科専門医」である。
- ③ 院長および執刀医が、角膜手術、眼内レンズの専門的な勉強、トレーニングをしている。
- ④ 院長および執刀医が、レーシック手術だけでなく眼科診療一般の知識を持ち対応ができる（感染症などの手術における基本的な対策が当然なされている）。
- ⑤ 術前検査と適応の見極め、手術に至るまでのプロセスがきちんとしている。
- ⑥ 術後のフォローアップ（定期健診や合併症の治療）を何度でもきちんを行う（患者の目の状態につき、最後まで、生涯におけるフォローを行う）。
- ⑦ 原則として、厚生労働省が認可したレーザーをはじめとする医療機器を使用している。
- ⑧ 日本眼科学会によるエキシマレーザー屈折矯正手術のガイドラインを順守している。

10のチェックリスト！

- 視能訓練士などの眼科検査スタッフが十分な検査を行い、その後、眼科専門医による診察を受け、検査内容と結果について医師からきちんと説明を受けましたか？
- 高度近視の人や、角膜の厚さが薄い人の場合、レーシック以外の術式も選択肢として検討しましたか？
- 術前検査とカウンセリングに十分な時間を持ちましたか？
レーシックの治療について、十分理解できましたか？
- 年齢やライフスタイル、手術の目的などを考慮した目標視力の設定を、医師と十分に話し合う時間を持ちましたか？
- 手術の合併症やデメリットに対する説明を受けましたか？
- はじめての適応検査の後、手術までに一定の日数を空けていますか？
- 手術後、短期のみならず長期にわたる定期検査を行う予定がありますか？
- 執刀医を把握できる診察でしたか？担当医師、執刀医は「眼科専門医」でしたか？
- あなたが不安に思うことを、きちんと質問できましたか？医師はそれにきちんと説明してくれましたか？
- 術後に問題があった場合には、最後まできちんと治療をすることが期待できる施設ですか？

詳しくはwebで

安心レーシック

検査

医療法人 小笠原眼科クリニック

院長 小笠原 孝祐

発行日 平成26年3月11日

〒020-0114

岩手県盛岡市高松3丁目10-12

TEL 019-662-3223

URL <http://ogasawara-eye-clinic.or.jp/>



院長 小笠原 孝祐

山田町（自衛隊屯所）



高田松原（一本松）

